岡崎彰夫氏より，真に思いもよらぬ通知を受けた。それによれば，氏が9日にある会合で同席した方が義質氏の令孫孝太郎氏（霞会館勤務）であった由である。間もなく孝太郎氏より手紙に添えて書物を贈られた。これは義質氏の子息，子爵花房太郎氏が生存中に編まれた“明治15年朝鮮事変と花房公使”（昭和4年出版，武田勝義著）という極めて興味深いものであった。本書中にはいかめしい正装の義質氏の写真や事変に関する数枚の錦絵が載っている。しかし氏の風貌と可憐な草花とは失礼ながらしっくりと結びつかない。孝太郎氏の手紙によれば“固い人間と感じて居りました祖父に花を愛するやさしい一面を見まして懐しい思いでございます”とあった。これについて津山　尚氏は面白い見方をしている。見事なヒゲを蓄えた森鷗外の例もあり，外貌と心のうちは一致せぬこともある，ひょっとしたら，外国で同様なロマンスでも生れたかも……との話。私もこれを聞いて短いヒゲをさすり，ニヤニヤとした次第。ここに改めて，本文中に実名を載せた諸先輩，知友に御協力を感謝致します。　（国立科学博物館）

---

**○野新田という地名について**（久内清孝）Kiyotaka HISAUCHI: A colloquial reading of a local name

嘉永の頃，越前の前田利保侯が名工，関根雲停に色彩図をかかせた稿本である「信筆鳩識西新井採薬記」の中に若干の立派な写生図があり，そのうちのあるものに「野新田」という地名がある。この読方であるが，嘗て牧野先生はエキサイゼリを書かれたときローマ字で Noshinden とかかれた。これを文政7年(1824)に岩崎灌園が作られた「武江産物志略図」という地図で当って見たら「ヤ新田」としてある。これがその頃の呼び方であったものらしい。この図には新田（シンデン）と呼ぶ処が多い。そうして，いずれも何々新田とあり，野新田もその一つである。この新田というのは草原を新しく田にしたということから出来た名である。この辺は現在の地図で見ると，東京都北区の王子に近いところで，何々新田が統一されて新田何丁目となっている。その内で「ヤ新田」は現在の新田上町に相当する。新田橋と呼ぶ橋もある。それはそれとして野新田はノ新田でなくヤ新田であった。因に信筆鳩識は単行本でなく，稿本であって，後にこの複製本が出来たが，これは白黒刷であり，大阪武田の杏雨書屋に珍蔵されている。

---

**□倉田　悟：原色日本林業樹木図鑑 V.** 238 pp. 1976. 地球社. ¥13,000. 林野庁監修のこの A4版大型図鑑は I-IV（本誌 **46**: 315 および **48**: 208 に紹介）が日本林業技術協会の編集（倉田博士主宰）であったが V では協会の名が消えた。本巻には観賞価値の高い樹種，重要な環境指標植物など32種の見事な図が載っていて新名はない。これまでの合計344図についての総索引をつけたところから，これでおおむね完結ということらしいので遅ればせながら紹介する。　（伊藤　洋）